

ニッポンハムグループ

サステナビリティ説明会



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

2022年10月6日 日本ハム株式会社



2 目次

10:00-10:10

代表取締役社長 畑 佳秀

- 03 サステナビリティ追求と企業価値向上について
- 06 企業理念の実現に向けたビジョンとマテリアリティ
- 07 サステナビリティ追求と推進の仕組み

10:10-10:30

経営企画本部長(サステナビリティ部担当) 井川 伸久

- 10 ニッポンハムらしさとサステナビリティ追求
- 14 たんぱく質の安定調達・供給
- 21 食の多様化と健康への対応
- 27 持続可能な地球環境への貢献
- 32 食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄
- 37 従業員の成長と多様性の尊重

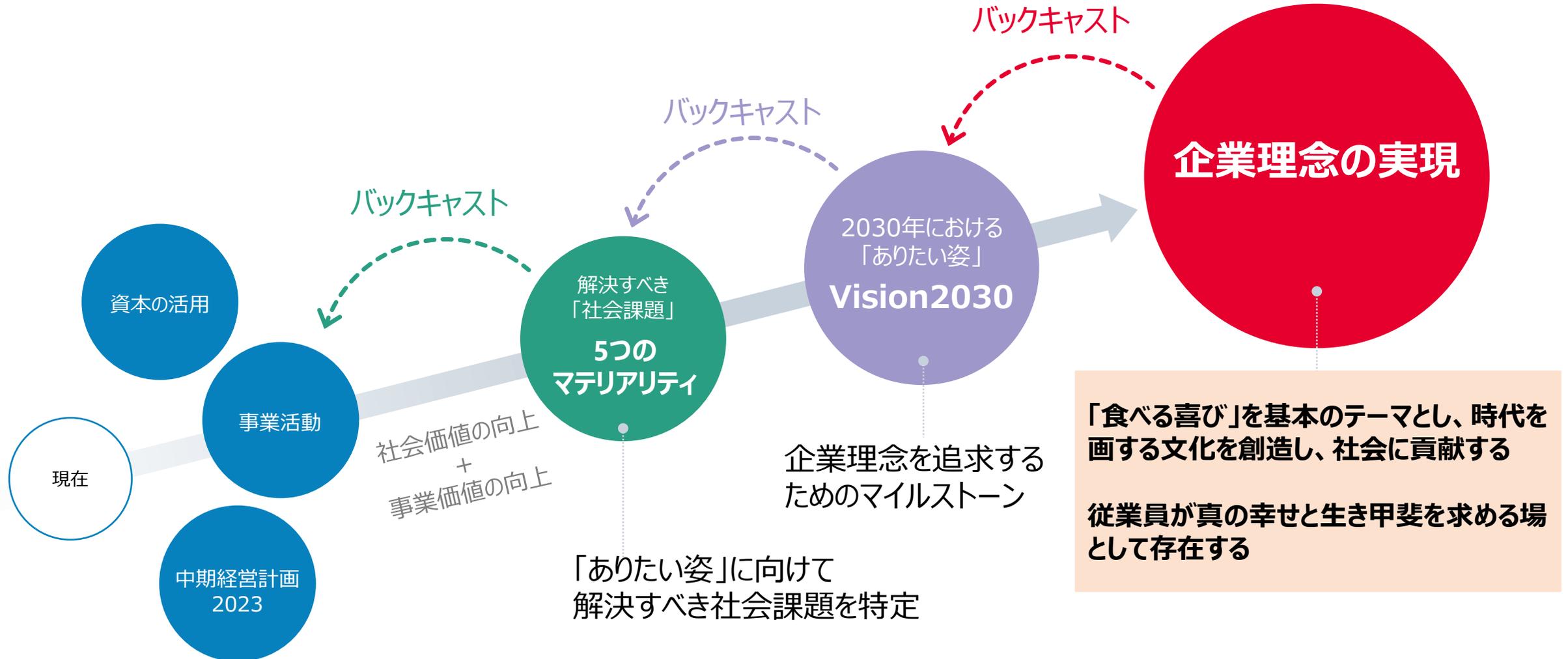


サステナビリティ追求と 企業価値向上について



4 企業理念・Vision2030とマテリアリティの関係

バックキャスト思考により、企業理念を追求するためのマイルストーンとしてVision2030を策定



マテリアリティの実践を通じた 社会課題の解決

- たんぱく質の安定調達・供給
- 食の多様化と健康への対応
- 持続可能な地球環境への貢献
- 食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄
- 従業員の成長と多様性の尊重

サステナビリティ戦略

DX戦略

新しい価値の創出

- 既存業務の圧倒的効率化
- ビジネス最適化
- データ起点の意思決定
- デジタルデータを起点とした
新たなビジネスモデル創出

3つの戦略を融合させ、 ビジネスモデルを変革する 企業価値の最大化

ビジネスモデル
変革

事業戦略

事業価値の向上（財務価値）

- 既存事業の強化と構造改革
- 成長領域における事業育成
- 最適ポートフォリオの追求
- 最適生産体制の構築

【企業理念】

「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する
従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する

【ビジョン】



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

【5つのマテリアリティ】

たんぱく質の
安定調達・供給

食の多様化と
健康への対応

持続可能な
地球環境への貢献

食やスポーツを
通じた地域・社会
との共創共栄

従業員の成長と
多様性の尊重

【企業理念】

「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する
従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する

企業理念を軸とした従業員エンゲージメント向上

▶ 従業員への働きかけ

- ・企業理念の浸透
- ・公正な評価と処遇
- ・活躍の場の提供



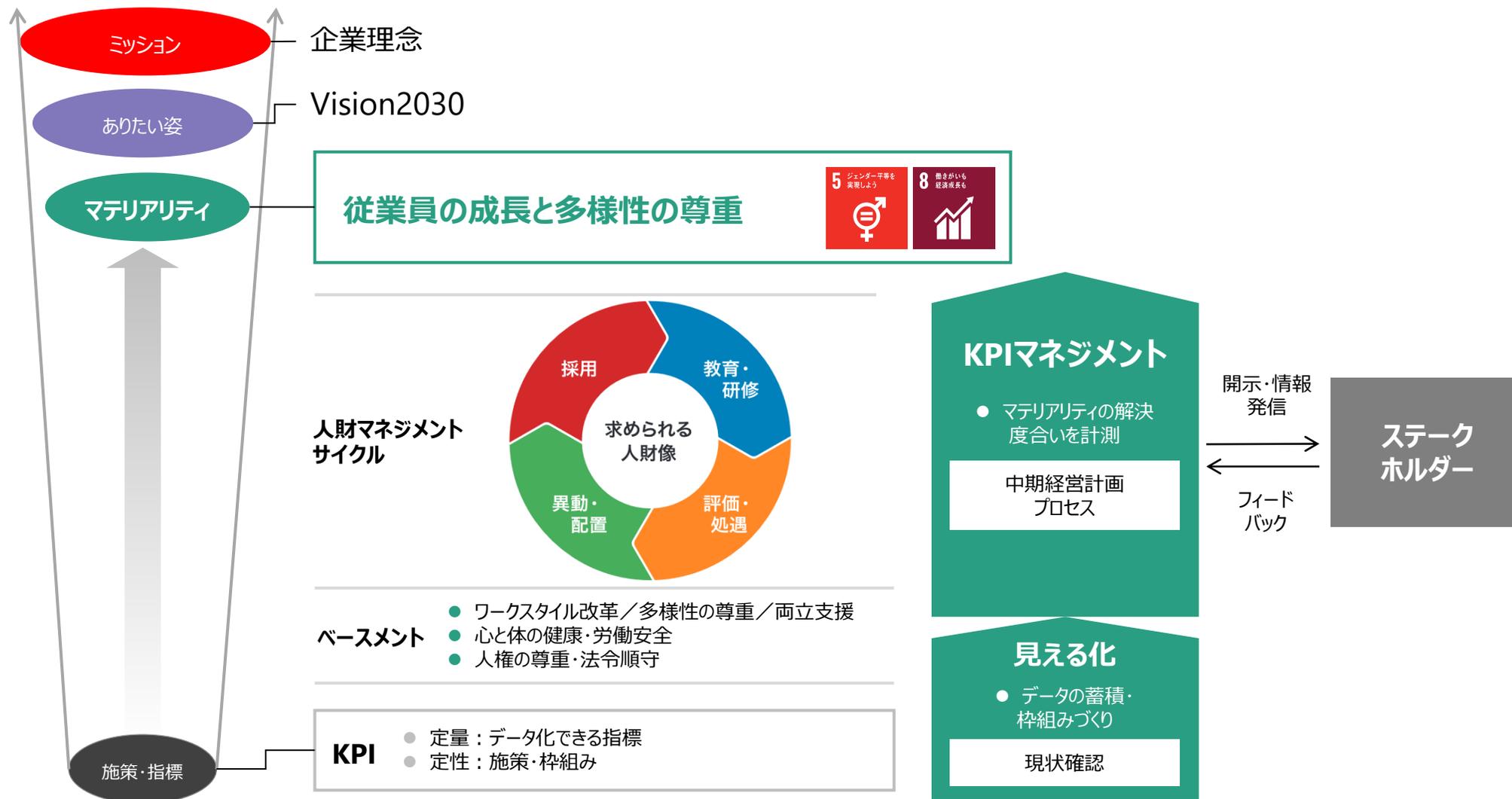
▶ 従業員への期待

- ・企業理念への共感
- ・業績への貢献
- ・従業員の成長

従業員と一体となりサステナビリティを追求

8 サステナビリティ追求と推進の仕組み（従業員）

KPIマネジメントにより、マテリアリティの取り組みの進捗度合いを計測



役員報酬の内訳



経営陣のESGへのコミットを高め、「企業価値向上」を推進

ニッポンハムらしさと サステナビリティ追求



11 振り返り（マテリアリティと取り組みの進捗）

マテリアリティの実践を通して、社会課題の解決に貢献していきます

中期経営計画2023
2021年→

2022年→

中期経営計画
2026

中期経営計画
2029



マテリアリティ

実施済の取り組みと目標 ●実施済 ●目標

たんぱく質の安定調達・供給	● アニマルウェルフェアポリシー、ガイドライン策定	● 全処理場内の係留所へ飲水設備の設置（牛・豚） ● 全農場・処理場への環境品質カメラの設置	● 全農場の妊娠ストール廃止（豚）
	● サステナブル調達：サプライヤー向けアンケート実施	● サプライヤー向けアンケート実施：人権デュー・デリジェンス、サプライヤーとのエンゲージメント	● 重要な1次・2次サプライヤーへの方針周知 ● SAQ実施
	● スマート養豚	● PIG LABO（スマート養豚）実装化	
	● 植物由来たんぱく質商品の開発（NatuMeat） ● 新たなたんぱく質の研究（培養肉、代替肉）	● 植物由来たんぱく質商品の拡充拡販（出荷金額100億円）	● 植物由来たんぱく質商品の開発
食の多様化と健康への対応	● 東京栄養サミット2021におけるコミットメント ● 機能性表示食品の開発	● 食物アレルギーケアプラットフォームの展開、啓蒙活動の実施	● 食物アレルギー関連商品の拡充および啓発（出荷金額40億円）
	● 食物アレルギーケアプラットフォーム立ち上げ		
	● 食物アレルギー関連商品の通販サイト	● 食物アレルギー予防研究	
		● 高齢者ケア事業やファミリーフード（ペットフード）事業の展開	● 認知機能改善商品（年間300万食）

12 振り返り（マテリアリティと取り組みの進捗）



マテリアリティ

実施済の取り組みと目標 ● 実施済 ● 目標

持続可能な地球環境への貢献

● 中長期環境目標の策定	● カーボンニュートラルに向けた取り組み検討 ● 家畜由来GHG排出量削減および回収に向けた研究（他者共同）	> 環境中長期目標 ● 国内の化石燃料由来のCO ₂ 排出量 ● 国内の廃棄物排出量 ● 国内の廃棄物排出量リサイクル率 ● 水使用量(国内・海外) ● RSPO認証パーム油使用率
● TCFDシナリオ分析	● フレームワークに基づくTCFDの情報開示	
● CO ₂ 削減目標設定（国内）	● 再生可能エネルギー活用の模索： 廃油ボイラー、太陽光発電、燃料転換の情報開示 ● カーボンニュートラル農場の開設	
● 包装資材の削減	● 「石窯工房®」の資材変更（紙トレイ） ● 「桜姫®」産地パックのパッケージに植物由来のバイオマスを使用	

食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄

● 北海道産原料を使用した北海道ブランドの構築	● 北海道プロジェクト推進室立ち上げ ● 北海道ボールパークFビレッジの開業	> 新規設定目標 ● 海外の水使用量 ● 海外の化石燃料由来のCO ₂ 排出量 ※CO ₂ 削減目標に関してP.29参照
● スポーツを通じた地域貢献（成績連動型社会貢献活動等）	● 北海道マラソンに参画	
● 食育活動、手作り体験教室	● さっぽろオータムフェスト2022に参画	

グループの重要生産販売拠点・北海道日本ハムファイターズのブランドを基点とした北海道との地域共生活動を推進

従業員の成長と多様性の尊重

● 重点項目のKPI設定と運用開始	● 従業員が生き生きと活躍し能力を伸ばすための仕組みづくり（仕事に対するやりがい向上／適正な評価処遇／客観的な昇格プロセス） ● 多様性を尊重し能力が発揮できる環境と仕組みづくり（女性活躍推進／障がい者雇用推進／総労働時間の削減／健康経営の推進）	> 新規目標設定 ● 女性活躍推進 ● 障がい者雇用推進 ● 総労働時間の削減 ● ころとからだの健康など P.38参照
-------------------	--	---

13 ニッポンハムらしいサステナビリティを追求

【ビジョン】



事業戦略とサステナビリティ戦略
の融合



独自性のあるサステナビリティ戦略
の推進

【5つのマテリアリティに沿ったニッポンハムらしい取り組み】

たんぱく質の
安定調達・供給

- スマート畜産
- アニマルウェルフェア
- 培養肉

食の多様化と
健康への対応

- 食物アレルギーケア
- 植物由来たんぱく質
- 検査キット

持続可能な
地球環境への貢献

- 化石燃料由来CO₂削減
- プラスチック削減
- 畜産由来GHG削減

食やスポーツを
通じた地域・社会
との共創共栄

- 北海道での地域共創
- 社会活動・地域貢献

従業員の成長と
多様性の尊重

- 挑戦できる風土
- 従業員の成長
- 多様性の尊重

Materiality

たんぱく質の 安定調達・供給



15 ニッポンハムらしいマテリアリティ推進の施策①

たんぱく質の
安定調達・供給

マテリアリティ推進の施策①

- 生きる力となるたんぱく質の摂取量向上（国内）
- 家畜の疾病対策
- サステナブル調達の推進（人権デュー・デリジェンスの実施）
- アニマルウェルフェアに配慮した取り組みの推進
- スマート畜産などの新たな技術の開発と活用
- 代替肉の技術開発
- 第三者認証の取得推進
- 専門技術認定をはじめ研修を通じた人財育成

ここでは、3つの推進事例をご紹介します

スマート畜産

アニマルウェルフェア

培養肉

新しい養豚のカタチを創造し、畜産業の未来を変える、 ニッポンハムグループの新たな挑戦

畜産DXによる
働き方改革

後継者不足解消
による持続性の
高い養豚

アニマルウェル
フェアの実現



AI/IoTを活用した養豚支援システム

エネルギー資源
飼料の削減

国内畜産農家の
支援

豚の調達力
強化

2022年

PIG LABOの発情検知機能「PIG LABO Breeding Master」のテスト販売開始

2029年

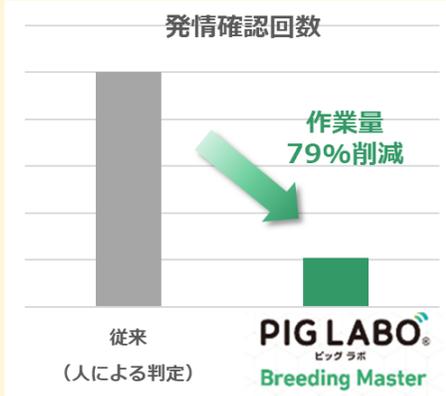
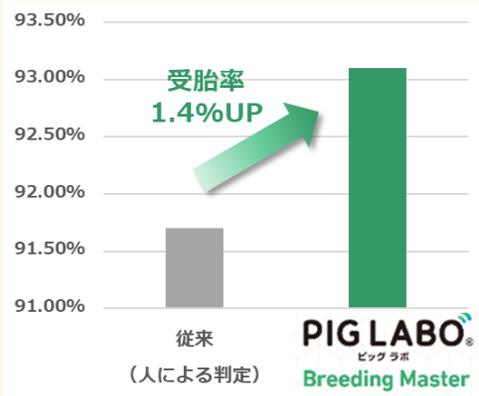
繁殖～育成～出荷までのすべてのステージのトータルサポートシステム完成

17 スマート畜産 (PIG LABO) 2

国内初の発情検知AIシステム 「PIG LABO Breeding Master」

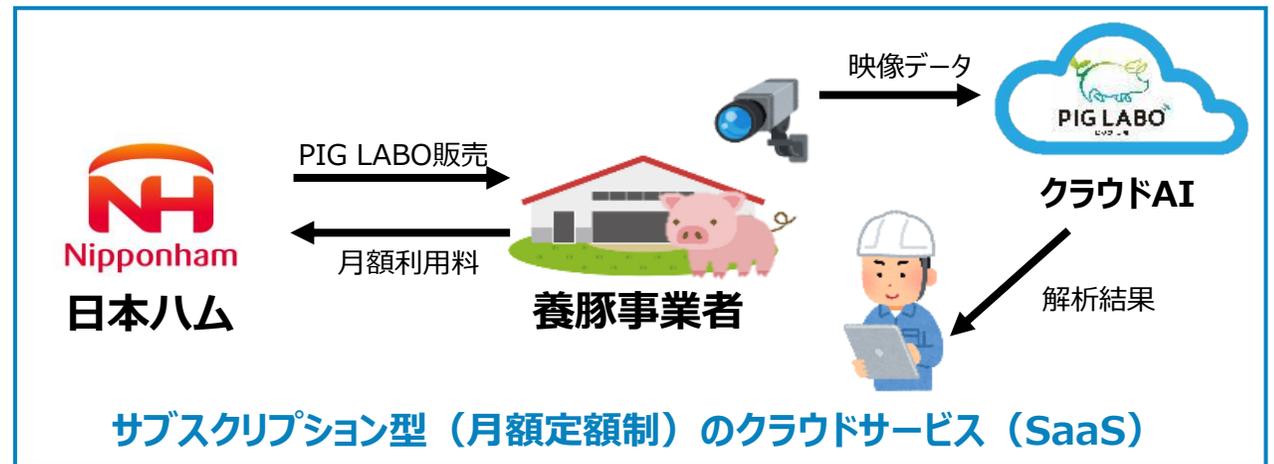


2022年10月12日よりテスト販売開始



熟練作業員の受胎成績をAIが再現！労務も削減！

全ステージを
トータルサポート



サブスクリプション型 (月額定額制) のクラウドサービス (SaaS)

アニマルウェルフェアと生産効率の両立を目指します

1) アニマルウェルフェア関連施策の指標と進捗状況

施策	指標	進捗状況（2022年9月現在）
全農場の 妊娠ストール廃止 [豚]	2030年度末までに 国内全農場※にて完了	9.5%
全処理場内の係留所への 飲水設備の設置 [牛・豚]	2023年度末までに 国内全拠点※にて設置完了	[牛] 50% [豚] 78%
全農場・処理場への 環境品質カメラの設置	2023年度末までに 国内全拠点※にて設置完了	[豚農場] 43% [牛処理] 80% [豚処理] 100%

※ニッポンハムグループが資本を過半数保有する企業が対象

2) 従業員への浸透策

- ・ グループ共通のポリシーおよびガイドラインを周知
- ・ 各社の管理要領および作業手順書の整備
- ・ 従業員へのアニマルウェルフェア教育実施
- ・ アニマルウェルフェアに関する相談窓口の設置

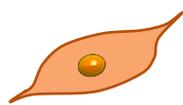
3) 今後の方向性

- ・ アニマルウェルフェアの更なる進化
- ・ ブランド化による付加価値の向上

【培養液主成分を「食品成分」に置き換えて、培養肉の製造へ】

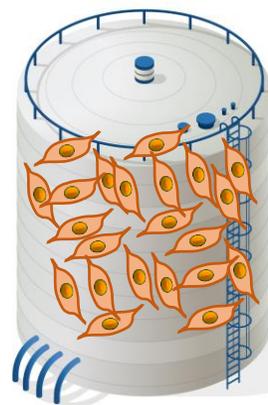
培養肉を作るのに必要な培養液の主成分を、動物の血清から食品成分で代替することに成功 **(特許出願中)**

技術的にクリアした点



種細胞

食べられる培養液で増殖



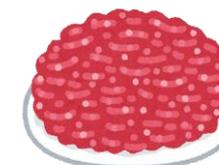
成型 ⇒ 食品

【メリット】コストダウン、大量調達

動物の血液成分（血清）は高コストで調達が困難
代替した食品成分は安価で大量調達（安定供給）も可能

今後の課題

- 培養液の完全食用化
- 細胞収穫量の向上
- 培養スケールの拡大



縦3.5cm×横2.5cm×厚さ5mm

血液成分の代わりに食品成分を
培養液に使用した培養肉試作品（鶏）

Materiality

食の多様化と 健康への対応



食の多様化と
健康への対応

マテリアリティ推進の施策②

- 食物アレルギー関連商品の拡充
- 食物アレルギーに関する研究や情報発信（コミュニケーションツールの拡充）
- 植物由来のたんぱく質商品の拡充拡販
- 認知機能を改善する新たな素材の研究と商品化
- 健康に寄与する商品の開発
- 健康寿命の延伸についての情報発信（コミュニケーションツールの拡充）
- 多様な文化・宗教などに対応した商品の開発、販売の実施

ここでは、2つの推進事例をご紹介します

食物アレルギーケア Table for All
(総合プラットフォーム・グルテンフリー)

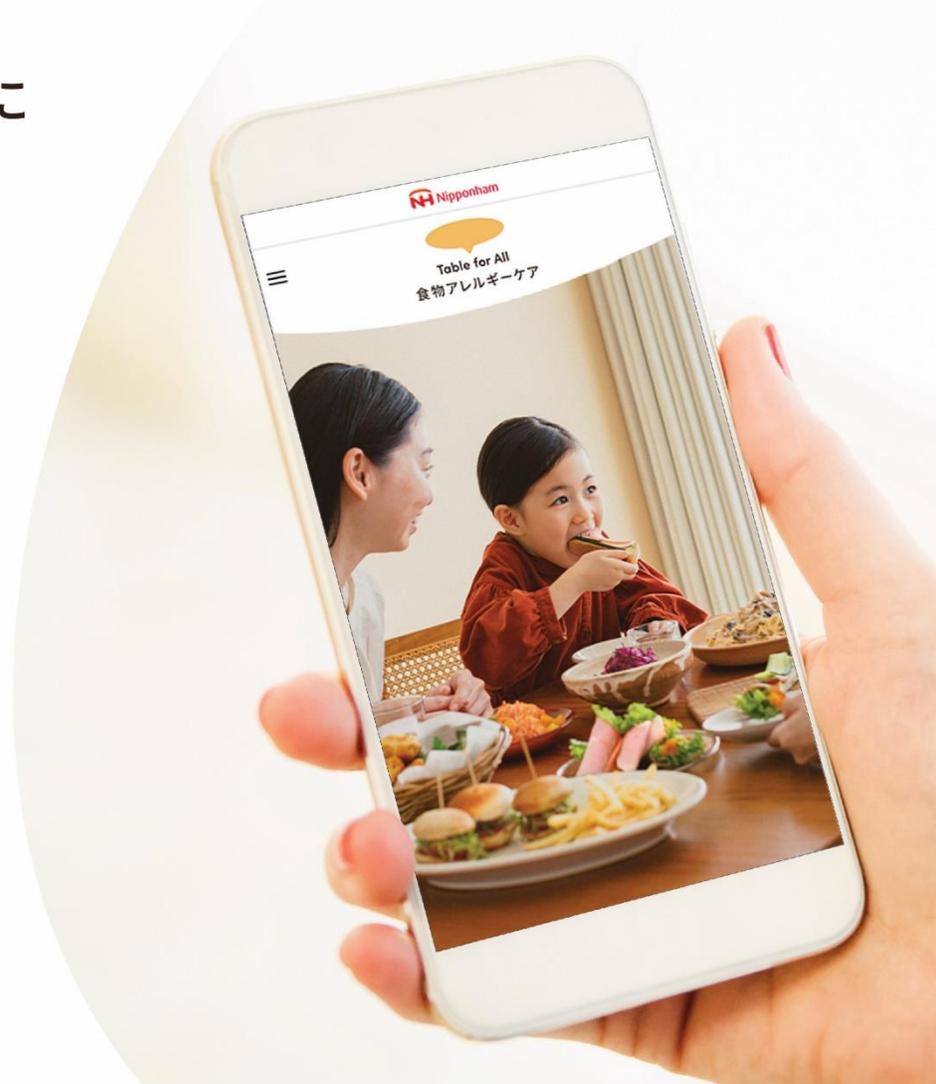
植物由来
たんぱく質商品

検査キット事業

25年培った知見を活かした**食品業界初***の食物アレルギーケア総合プラットフォーム

みんなの
食べたいに
よりそう。
Table for All

- 1 食物アレルギー情報
- 2 オンライン栄養相談
- 3 食物アレルギー対応商品(4月上旬)
- 4 食物アレルギー対応レシピ
- 5 よみもの
- 6 SNS
- 7 イベント・セミナー



管理栄養士による無料の栄養相談



スマホで
気軽に
相談



食物アレル
ギー専門の
管理栄養士
が対応



お子さんに
合ったアド
バイスがも
らえる

¥0 無料で
利用できる

600種類を超える豊富なレシピ



中華丼



カラフル
クリームパン



洋風
ちらし寿司

※ 大手食品メーカーや非営利団体、専門EC、専門レシピサイトを自社独自に調査し、食物アレルギーケアの様々な要素を持ち合わせる総合プラットフォームはなし（22年2月9日時点）

Copyright © NH Foods Ltd. All Rights Reserved. (無断転載禁止)

23 Table for All 食物アレルギーケア総合プラットフォーム

食物アレルギーに対応した商品ブランド 「みんなの食卓®」



ロースハム



ソーセージ



米粉パン
(グルテンフリー)

北米に
輸出



米粉パン



ハンバーグ・
ミートボール



スイーツ・
デザート



米粉めん・パスタ



安全で安心していただける専用工場での製造

みなさまの食卓へ



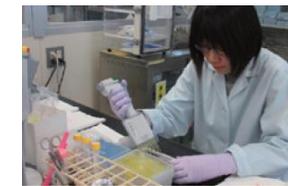
厳格な原材料の確認



混入防止の徹底



品質管理の徹底



出荷前に再検査

1

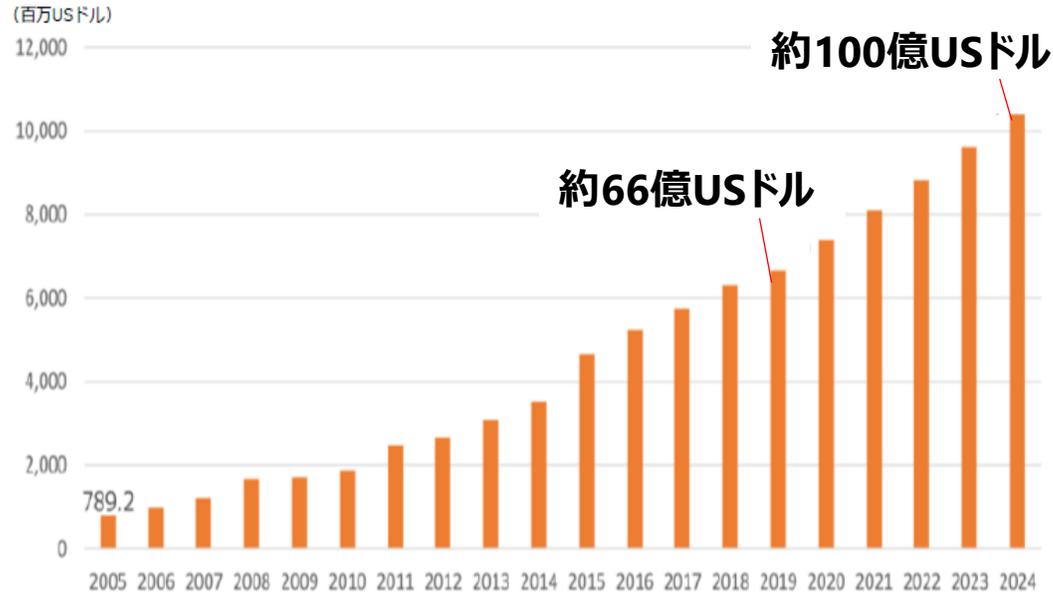
2

3

4

24 グルテンフリー認証商品の海外展開

グルテンフリー市場の伸長（今後の予測）



アメリカや欧州を中心に、世界のグルテンフリー市場は順調に拡大しており、2024年には約100億USドルに達する見込み

注：2020年以降は予測値
出所：Euromonitor Dataを基にJFOODOにて作図（農水省HP）

展開予定商品と認証マーク



G F C O (Gluten-Free Certification Organization)とはアメリカでセリアック病患者と他のグルテン関連疾病患者の協会により設立された世界中の企業の商品を認証している機関です。GFCOの認証マークは国際的に消費者に信用されており、セリアック病やグルテン不耐性をもつ消費者に食品の安全性を保証するために、厳格な基準で認証を実施しています。

まずは西海岸で
テスト販売



2022年3月に米国・国際展示会に参加

25 植物由来たんぱく質商品（大豆ミート）の新展開

植物由来たんぱく質の
2030年に売上高目標
100億円に向けて、
自由な発想で商品展開していきます

大豆ミートの海外輸出を本格展開

- 培われた加工技術をいかし、米国での販売へ
- デイリーフーズ社（LA）による販売網を活用
- 米国では流通が少ない唐揚げ・薄切り肉風
- 主に業務用での展開を見込む
- 9月より輸出開始



大豆ミートを国内製造
工場で加工し、米国へ輸出

大豆ミートの新機軸となる水産代替品を展開

- フィッシュ風フライとして、白身魚の代替品を開発（特許出願済）
⇒ 業務用から展開させ、コンシューマ商品も視野に
水産資源の枯渇に対する海洋資源保護や
水産原料の価格高騰対策として需要が見込まれる

（導入メニューイメージ）



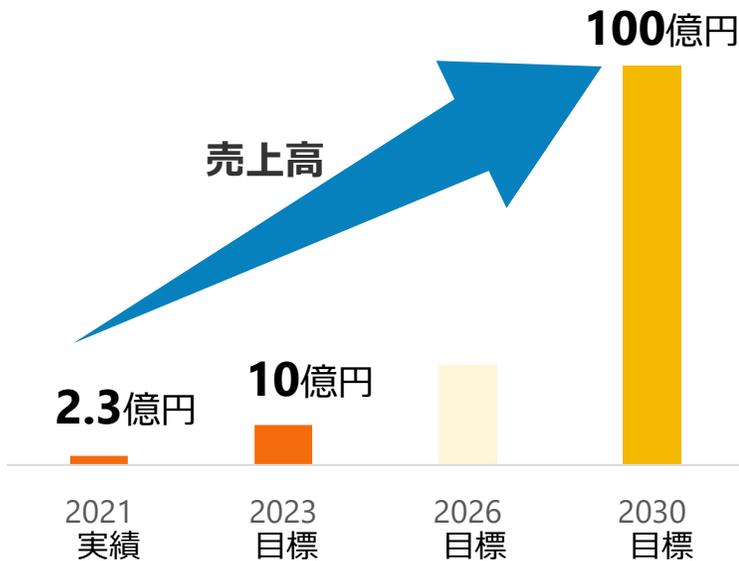
フィッシュ風&チップス

NatuMeat（ナチュミート）

- アイテム数 11品



フィッシュ風フライサンド



植物由来のたんぱく質商品の拡充拡販

中央研究所は、食品検査キットや動物診断薬(口蹄疫検査キット)を開発・製造・販売

食物アレルギー検査キット

国の
公定法



FASTKIKIT
エライザVer.Ⅲ



FASTKIKITスリム

食の安全安心

食中毒菌検査キット

国際
認定



NHイムノクロマト

カビ毒食検査キット



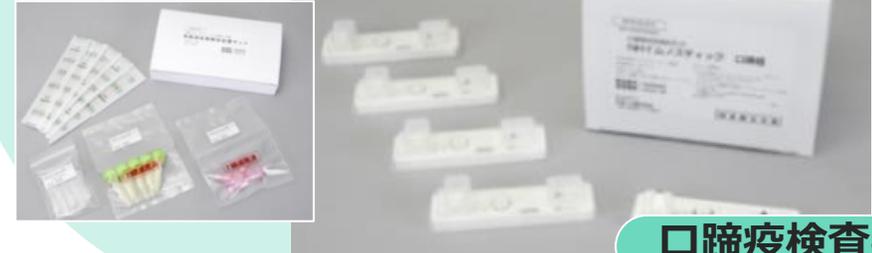
MycoJudge

MycoCatch

動物用体外診断用医薬品

国の防疫

防疫指針
掲載



口蹄疫検査キット

食品企業（メーカー、流通）、行政機関（保健所、衛生研究所、家畜保健所等）、検査センターなどのお客様に広くご利用いただいている。

患者数増加を受け特定原材料として表示義務化となる「くるみ」アレルギーについて、高精度に加工食品中のクルミアレルゲン量の測定が可能な「FASTKIKITエライザVer.Ⅲくるみ」を2022年度内に発売予定

Materiality

持続可能な 地球環境への 貢献



持続可能な
地球環境への貢献

マテリアリティ推進の施策③

- 化石燃料由来のCO₂排出量削減
- 家畜由来の温室効果ガスに対して抑制、削減をするための研究、技術開発の推進
- 水使用量削減
- 国内の廃棄物排出量削減、廃棄物排出量リサイクル率向上
- 環境配慮型資材（再生素材やバイオマス素材など）の使用や包装資材などの使用量削減
- 水リスクの高い地域の特定、地域の実態の調査と課題への対応
- 製造から販売、物流で発生する食品ロス削減の推進
- 2030年度までにRSPO認証パーム油使用率100%（ブック アンド クリームを含む）
- 持続可能な水産資源の認証品の取り扱い品目増（MSC/ASC）
- 森林保全活動の推進

ここでは、3つの推進事例をご紹介します

化石燃料由来CO₂削減

プラスチック使用量削減

畜産由来GHG削減

中長期
環境目標

2030年度までに 化石燃料由来のCO₂排出量
【国内】2013年度比 46%以上削減 【海外】2021年度比 24%以上削減

1) 事業所への太陽光発電の導入

2022年9月現在17事業所に導入済
今年度中にさらに5事業所に導入予定

■ 全22事業所の能力
CO₂削減量：約2,500t- CO₂ /年



2023年に日本ハム北海道ファクトリー旭川工場隣接地、
2024年に北海道の南幌遊休地に
大規模太陽光発電を設備を設置予定

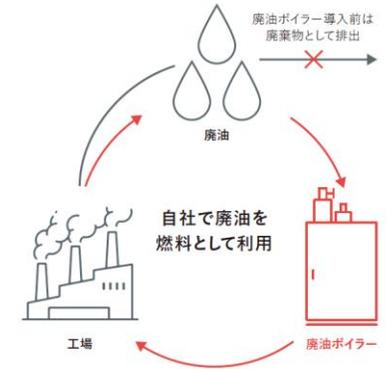
■ 北海道大規模発電2箇所の能力
CO₂削減量：約2,400t- CO₂ /年



2) 工場への廃油ボイラーの導入

食品製造過程で排出される動植物
性油脂をボイラーに使用
2022年9月現在加工食品工場
6事業所に導入済

■ 全6事業所の能力
CO₂削減量：約2,600t- CO₂ /年



3) 燃料転換

重油の天然ガス化等を推進

4) バイオガスプラント

工場排水から取り出したメタンガスを
エネルギーとして使用
(オーキービーフエキスポート：豪州)



2050年カーボンニュートラルの実現を目指します

30 プラスチック使用量の削減

プラスチック使用量の削減・環境配慮資材の使用を推進します

1) プラスチック使用量の削減

ウインナー群：巾着からエコ・ピローへ
プラ使用量 28%削減



断髪

「シャウエッセン」シリーズをはじめ、
主力ウインナー商品も切り替え



2) プラスチックから紙へ

チルドピザ：プラトレイから紙トレイへ
プラ使用量 37%削減

ヨーグルト：プラ容器から紙容器へ
プラ使用量 94%削減



チルドピザ「奏」シリーズにて、
プラスチックトレイを紙トレイ
に変更
「Isey SKYR」シリーズも、
プラスチック容器から紙容
器に変更

チルド餃子：トレイサイズ縮小

プラ使用量 20%削減



「羽根付き餃子」シリーズ
にて、タレなどが入ってい
た場所をなくし、トレイサ
イズを縮小

※プラ使用量の削減は従来商品との比較

3) 植物由来のバイオマスを使用



「国産鶏肉 桜姫®産地パック」パッ
ケージに使用されるプラスチックの一部
をサトウキビ由来の原料に置き換え

31 家畜由来のGHG削減

メタンガス削減に向けての取り組み・研究を推進します

1) 自社農場における検証：飼料への添加物配合によるメタン抑制

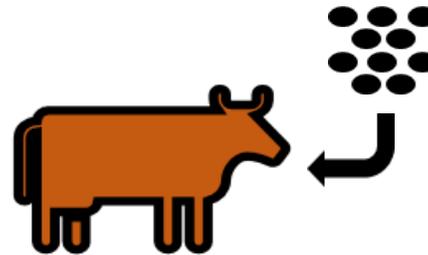
豪州の生産者団体MLA*と共同研究を実施

【期待できる効果】

- ①メタンガスの生成を30%以上削減
- ②体重の増加による生産性向上

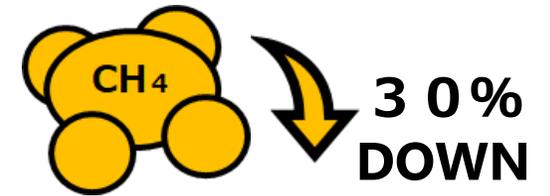
※MLA：Meat & Livestock Australia
豪州に肉牛と羊の生産者の出資によって設立されて生産者団体。
学者をはじめとする有識者が在籍

飼料への添加物配合

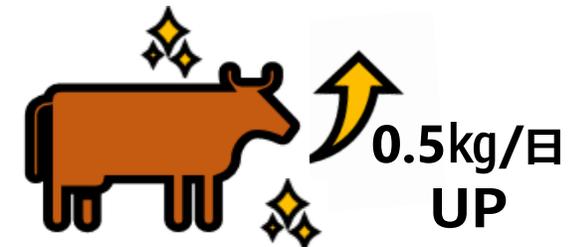


期待される効果

発生するメタンの削減



体重の増加



2) 産学連携による研究の推進

産学連携により畜産で排出される温室効果ガスの排出抑制に資する技術を開発し、社会実装することで地球温暖化の抑制への貢献を目指す

【研究題目】

- ・北海道大学：「ウシルーメンにおけるメタン発生抑制法の開発」
- ・大阪大学：「メタンに対する特異的吸着能を保有する多孔質有機塩の研究」
- ・徳島大学：「ブタにおける温室効果ガス排出に関する研究」

Materiality

食やスポーツを 通じた地域・社会 との共創共栄



食やスポーツを
通じた地域・社会
との共創共栄

マテリアリティ推進の施策④

- スポーツを通じた地域共創の活動の推進
（北海道新球場、スポーツ・食育教室など）
- 文化的活動を含めた地域貢献活動の推進
（地域イベントへの協力や清掃活動など）
- 食を通じた社会福祉活動の推進
（フードバンクや子ども食堂への食材の提供など）
- 食育などを通じた次世代育成の支援（出前授業、キャリア教育支援など）

ここでは、2つの推進事例をご紹介します

北海道での地域共創

社会活動・地域貢献

マテリアリティ：食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄

従業員 約2,600名

事業との関連性

+

北海道日本ハムファイターズ

+

北海道ボールパークFビレッジ開業

ニッポンハムグループ拠点の
約2割が北海道に

北海道へ移転し19年、
地域密着で球団経営

2023年開業、マテリアリティを
具現化した拠点に

物流・営業	24か所
農場	65か所
工場	12か所
計	98か所

北海道にある有形・無形資産を活用し、地域共生活動を推進
「食やスポーツを通じた地域の共創共栄」を实践

北海道に愛される企業を目指します

北海道ボールパーク Fビレッジを軸に北海道でマテリアリティを推進し、北海道と共に企業価値向上

北海道ボールパーク Fビレッジから創出が期待される価値

社会的価値

新球場がもたらす地域貢献

- 防災拠点としての機能
 - ・避難場所・物資備蓄
- 持続可能なまちづくり
 - ・産学連携・子供の成長へ寄与
 - ・雇用の創出

+

ブランド価値

新球場を核としたブランディング

- グループ各社との連携強化
- 新球場内での訴求
 - ・Tower11 フードホール飲食事業
 - ニッポンハムグループ商品を活用

+

経済価値

「食の大地」北海道で 事業拡大 / 事業創出

- 日本ハムにおける事業価値向上
 - ・球団収益向上
 - ビジネスモデル変革による改善
- 広告、チケット収入等の向上
- 北海道ブランドおよびニッポンハムのグローバル展開

サステナビリティボンド発行
新球場の社会性を担保
機関投資家向け100億円
個人投資家向け200億円



©H.N.F.

飾り切り・飾り折り教室の実施



飾り折り



飾り切り

各地のこども食堂へ自社商品を寄付



北海道179市町村応援大使プロジェクト



北海道日本ハムファイターズ選手が応援大使となり、地域活性化に貢献

2013年にスタートし10年目の2022年をもって北海道内全179市町村を一巡

フードカウンター：観客動員数連動型社会貢献事業（ニッポンハム×北海道ニッポンハムファイターズ）



【来場者数×1円】のニッポンハム製品を道内の自立援助ホームやこども食堂北海道ネットワークに支援

Materiality

従業員の成長と 多様性の尊重



38 ニッポンハムらしいマテリアリティ推進の施策⑤

従業員の成長と 多様性の尊重

従業員の成長

- 評価処遇（適切なフィードバック）
- 客観的な昇格プロセスの有無
- 客観的な役員登用のプロセスの有無 ほか

挑戦できる風土

- 仕事に対するやり甲斐の向上
- 目標管理制度における挑戦項目も設定 ほか

多様性の尊重

- 女性活躍推進(女性管理職比率20%以上)
- 障がい者雇用推進(障がい者雇用率2.3%以上)
- 総労働時間の削減（1,870時間）
- ころとからだの健康（健康診断再検査実施率100%、喫煙率12%、ストレスチェック受検率100%）ほか

* 目標は2030年

お問合せ先

〒141-6013 東京都品川区大崎2-1-1

Think Park Tower

日本ハム株式会社 広報IR部

電話：03-4555-8024

メールアドレス：nhfoods.ir@nipponham.co.jp

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。従って、これら業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え頂きますようお願いいたします。また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。